

表3-5 省庁連絡会議 法規制対象物質分類担当者アンケート結果一覧(5)

	Q	R	S	T
1. 年齢	63	56	64	61
2. 職業	その他	法人職員	時間職員	会社員
職種・業務	社内使用化学物質の安全性チェック, 等級付け, 開発物質の安全性確認, 社内安全教育など	農薬の安全性評価(特に環境残留とヒトばく露影響評価)	農薬の研究開発・研究管理	農・化学品の登録, 安全性評価
化学物質関連従事期間(年)	22	30	30	35
パソコン使用歴(年)	15	13	8	15
3. 最終学歴	大学	修士	大学	修士
学科・専攻	応用化学	農芸化学	農学科	薬学
4. 専門科目	有機合成	農薬化学	応用昆虫学, 農薬化学	薬学, 衛生化学
職場教育	毒性学, 安全性試験実施および判定, 化学物質の安全管理全般		農薬の安全性評価, 有機合成, 農薬の微量分析	毒性学全般, 一般環境科学
研究内容		農薬のリスク評価	新農薬の開発	農薬の哺乳動物代謝, 化学品の発がんDNA損傷等
独学				
資格等	危険物取扱主任者甲		危険物取扱者甲, 毒物劇物取扱責任者, 第1種放射線取扱主任者	
5. GHS分類分野	健康有害性	健康有害性, 環境有害性	物理化学的危険性	健康有害性
これまでの分類時間	100	1000	600	30
不得意分野での不都合	ある	ある	ある	ある
その理由		物理的危険性のデータが, 引火点以外全くない	作業に慣れていない	物理化学的危険性を分類する必要が生じた場合, その基礎的知識がない。
全危険有害性分類にかかる時間		70時間	一概に言えない	2時間
6. 分類に必要な知識・情報の種類	毒性学, 毒性データの読み方, 文献の信頼性, 化学一般常識が必要である。	有害性の分類において, 急性毒性以外は, かなりの専門性が必要である。化合物によりデータの構成や種類が異なるので化合物ごとの判断が必要である。	古い化合物の情報が不足している。	技術上の指針と諸外国の分類に関する最新情報を把握する。
7. 効率的分類, 分類者間差異の是正	分類基準を明確かつ詳細にする。個人が有する安全性情報にとらわれない。文献情報の取捨選択の基準を明確にする(総説の取扱, 優先順位, 動物種の違いなど)。	分類項目毎に必要な情報源をできるだけ絞捨選択の基準を割り切りで簡単にする。	部類作業の実務者による情報交換, 結果のすり合わせ等が必要である。	技術上の指針のさらなる改正が必要である。(通常の評価上の取り扱いの原則と異なることがある。例えば標的臓器の記載について, Priority1の原則と複数評価書での共通記載臓器の原則が矛盾している。)

表 3-6 省庁連絡会議 法規制対象物質分類担当者アンケート結果一覧 (6)

	U	V	W
1. 年齢	66	39	65
2. 職業	その他	派遣社員	法人職員
職種・業務	化学品安全コンサルタント業務、樹脂添加剤開発、科学法規制対応、化学品安全教育、PL 対応	(GHS 分類作業)	調査研究、生物化学、生物工学、医薬品開発研究、化学物質安全管理研究
化学物質関連従事期間(年)	32	1	40
パソコン使用歴(年)	18	17	40
3. 最終学歴	大学	修士	修士
学科・専攻	化学科	薬学	農芸化学
4. 専門科目	分析化学、地球科学		有機化学、無機化学、物理化学、生物化学
職場教育	法規制対応、製品安全、品質保障		生物工学、毒性学、医学基礎
研究内容	レギュラトリーサイエンス、化学物質管理		微生物代謝産物の研究、発がん性物質の開発研究、遺伝子工学、基礎医学、化学物質安全性研究
独学	衛生・公衆衛生学		
資格等	危険物取扱者甲、公害防止管理者、放射線取扱者、高圧ガス保安管理者	毒物劇物取扱責任者	危険物取扱者、毒物劇物取扱責任者
5. GHS 分類分野	健康有害性	健康有害性	健康有害性
これまでの分類時間	600	1500	1000
不得意分野での不都合	ある	ある	ある
その理由	物理化学的危険性データが少ない。UNETDG の評価基準が良く理解できていない。環境慢性毒性のデータが少ない。	知識不足のため作業に時間がかかる。	危険性分類のためのデータが無い。
全危険有害性分類にかかる時間	25~40 時間	1~10 日	35 時間
6. 分類に必要な知識・情報の種類	UNRTDG の基礎及び国連番号の仕組みを理解する。OECD テストガイドラインを理解する。GHS のあいまい部分を解決する。	毒性、物質の化学的・物理的性質に関する知識が必要である。	危険有害性情報を有する化学物質の数が少ない。危険有害性情報の質が不明である。危険性情報が不足している。GHS 文書の表現にあいまいな箇所がある。
7. 効率的分類、分類者間差異の是性	GHS 分類のためのデータセンターを設置する。所管官庁が定めるべき基準を設定する。CBI 基準を設定する。現在行っている分類の詳細データを公開する。分類に関する十分な教育コースを実施する。中小企業に対する GHS 分類支援センターを設置する。	使う情報を統一する。物質ごとに担当者を分けるほうが効率的であるが、分類作業者の知識によっては毒性により担当者を分けたほうが分類結果の差異は少なくなる。	現在の GHS 分類入力書式を改善する。もっと簡便な分類マニュアル・指針が必要である。4000~5000 物質について GHS 分類を実施し公表する。混合物用の分類ソフトを開発し廉価で販売する。現在の 1500 物質分類の経験を蓄積する。

表4-1 分類結果一覧（キシレン）

危険有害性クラス	分類者 ア	分類者 イ	分類者 ウ	分類者 エ	分類者 オ	分類者 カ	分類者 キ	分類者 ク
物理化学的危険性	区分外	引火性液体 3	引火性液体 2	引火性液体 3	引火性液体 3	引火性液体 3	引火性液体 3	引火性液体 3
急性毒性（経口）	5	5	5	5	5	5	5	5
急性毒性（経皮）	データ不足	区分外	データ不足	データ不足	5	データなし		分類不可
急性毒性（吸入：ガス）	対象外	対象外	対象外	対象外	対象外			区分外
急性毒性（吸入：蒸気）	区分外	区分外	区分外	区分外	5	データなし		
急性毒性（吸入：粉塵、ミスト）	データなし	データなし		データなし	データなし			
皮膚腐食性/皮膚刺激性	2	2	2	2	2	2	2	2
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	2A	2A	2A	2A	2A	2A	2B	2A
呼吸器感作性又は皮膚感作性	データなし	データなし	データなし	データなし	データなし	データなし		
生殖細胞変異原性	区分外	区分外		区分外	区分外	区分外		区分外
発がん性	区分外	区分外	区分外	区分外	区分外	区分外		
生殖毒性	1B	1B	1B	1B	1B	1B		1B
標的臓器/全身毒性（単回暴露）	1, 3	1, 3	1, 3	1, 3	1	1	1, 3	1, 3
標的臓器/全身毒性（反復暴露）	1	1	1	1	1	2	1	1
吸引性呼吸器有害性	2	2	2	2	2	2	1	
水生環境有害性（急性）	2	2	2	2	2	2	1	3
水生環境有害性（慢性）	区分外	区分外	区分外	区分外	区分外	区分外		3

表 4-2 分類結果一覧（エポキシ樹脂 A タイプ）

危険有害性クラス	分類者 ア	分類者 イ	分類者 ウ	分類者 エ	分類者 オ	分類者 カ	分類者 キ	分類者 ク
物理化学的危険性	区分外	該当せず		該当せず				区分外
急性毒性（経口）	区分外	4	区分外	区分外	区分外	区分外		区分外
急性毒性（経皮）	4	4	4	データ不足	データ不足	データなし		
急性毒性（吸入：ガス）	対象外	対象外	対象外	データなし	対象外	データなし		
急性毒性（吸入：蒸気）	データなし	データなし	データなし	データなし	データなし	データなし		
急性毒性（吸入：粉塵、ミスト）	データなし	データなし		データなし	データなし	データなし		
皮膚腐食性/皮膚刺激性	3	2	3	区分外	2	2	2	2
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	1	2B	2B	2B	2B	2A		2A
呼吸器感作性又は皮膚感作性	1	1	1	1	1	1	1	1
生殖細胞変異原性	1	データ不足	データ不足	2	データ不足	データ不足		1B
発がん性	区分外	データ不足	データ不足	データ不足	区分外	区分外		2A
生殖毒性	2	データ不足	データなし	1B	データなし	データなし		1B
標的臓器/全身毒性（単回暴露）	データなし	データなし	データなし	データなし	データなし	データなし		分類不可
標的臓器/全身毒性（反復暴露）	2	データなし	区分外	2	分類不可	データなし	2	2
吸引性呼吸器有害性	データなし	データなし		データなし	データなし	データなし		
水生環境有害性（急性）	2	2	2	2	2	データなし	2	区分外
水生環境有害性（慢性）	データなし	2	データ不足	データ不足	データ不足	データなし		区分外

表 4-3 分類結果一覧 (クロム酸ストロンチウム)

危険有害性クラス	分類者 ア	分類者 イ	分類者 ウ	分類者 エ	分類者 オ	分類者 カ	分類者 キ	分類者 ク
物理化学的危険性	区分外	該当せず	該当せず	該当せず				5
急性毒性(経口)	5	3	4	4	5	区分外		
急性毒性(経皮)	5	データなし	データなし	データなし	データなし	データなし		
急性毒性(吸入:ガス)		対象外		対象外	対象外	データなし		
急性毒性(吸入:蒸気)		データなし		データなし	対象外	データなし		
急性毒性(吸入:粉塵、ミスト)		データなし		3	4	データなし		2
皮膚腐食性/皮膚刺激性		データ不足	データ不足	データなし	1	データなし	3	2
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性		データ不足	データ不足	2A	1	2	2B	2
呼吸器感作性又は皮膚感作性		データ不足	データなし	1	1	データなし		1
生殖細胞変異原性	2	データ不足	2	2	データ不足	データなし		1B
発がん性	2	1B	1B	1B	1A	1B		1
生殖毒性		データなし		データなし	データなし	データなし		
標的臓器/全身毒性(単回暴露)		データなし	3	データなし	1	データなし		1
標的臓器/全身毒性(反復暴露)		データなし		1	1	データなし	2	1
吸引性呼吸器有害性		データ不足		2	データなし	データなし		
水生環境有害性(急性)		1	データなし	データ不足	3	データなし	1	3
水生環境有害性(慢性)		1	データなし	データなし	区分外	データなし		1

表 4-4 分類結果一覧（アモルファス性シリカ）

危険有害性クラス	分類者 ア	分類者 イ	分類者 ウ	分類者 エ	分類者 オ	分類者 カ	分類者 キ	分類者 ク
物理化学的危険性	区分外	該当せず						
急性毒性（経口）	データなし	データなし	区分外	区分外	5	5		
急性毒性（経皮）	データなし	データなし	データなし	データなし	データなし	データなし		
急性毒性（吸入：ガス）	データなし	対象外		対象外	対象外	データなし		
急性毒性（吸入：蒸気）	データなし	データなし		データなし	対象外	データなし		
急性毒性（吸入：粉塵、ミスト）	データなし	データなし		分類不可	データなし	データなし		
皮膚腐食性/皮膚刺激性		データなし		区分外	データなし	データなし		
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性		データなし		分類不可	データなし	2		
呼吸器感受性又は皮膚感受性		データなし	データ不足	データなし	データなし	データなし		
生殖細胞変異原性		2		2	データなし	データなし		
発がん性	3	区分外	区分外	区分外	区分外	区分外		
生殖毒性	データなし	データなし	データなし	データなし	データなし	データなし		
標的臓器/全身毒性（単回暴露）	データなし	データ不足		3	1	データなし		区分外
標的臓器/全身毒性（反復暴露）	データなし	データなし		1	1	データなし	2	分類不可
吸引性呼吸器有害性	データなし	データ不足		2	データなし	データなし		
水生環境有害性（急性）		データなし	区分外	区分外	データなし	データなし		
水生環境有害性（慢性）		データなし		データなし	データなし	データなし		

表 4-5 分類結果一覧（混合物：シタヌール）

危険有害性 クラス	分類者 ア	分類者 イ	分類者 ウ	分類者 エ	分類者 オ	分類者 カ	分類者 キ	分類者 ク
物理化学的 危険性	区分外	引火性液体 3		引火性液体		引火性液体 3	引火性液体 3	引火性液体 3、酸化性 液体 3
急性毒性 (経口)		4		4	5		区分外	区分外
急性毒性 (経皮)		4			5			区分外
急性毒性 (吸入：ガ ス)								対象外
急性毒性 (吸入：蒸 気)					5			区分外
急性毒性 (吸入：粉 塵、ミスト)								
皮膚腐食性 /皮膚刺激 性	2	2		2	1	2	2	2
眼に対する 重篤な損傷 性/眼刺激 性	1	2A		2	1	2A	2B	2A
呼吸器感作 性又は皮膚 感作性	1	1		1	1	1	1	1
生殖細胞変 異原性	1	1B		2			2	1B
発がん性	2	1A		1B	1	1B	1	1A
生殖毒性	1	1B		1B	1	1B		1B
標的臓器/ 全身毒性 (単回暴露)		1, 3		1	1	1	1, 3	1, 3
標的臓器/ 全身毒性 (反復暴露)		1		1	1	1	1	1, 2
吸引性呼吸 器有害性		2		2	2	2	1	1
水生環境有 害性(急性)		2		2	2	2	1	2
水生環境有 害性(慢性)		2		2				2

表5-1 分類者アンケート結果（1）

	分類者 ア	分類者 イ	分類者 ウ	分類者 エ
1. 年齢	28	33	25	27
	大学院生（博士後期）	大学院生（博士後期）	大学院生（博士後期）	大学院生（博士後期）
職種・業務			動物での毒性実験	化学物質のリスク評価
化学物質関連従事期間(年)		2	3	4
パソコン使用歴(年)	8	20	4	8
3. 最終学歴	修士		修士	修士
学科・専攻	環境システム学	労働衛生	衛生学	
4. 専門科目	水質学	医学		
職場教育				
研究内容	転写メカニズムの解明	遺伝子多系解析	農薬の生殖毒性	環境化学物質の発ガンリスク評価
独学				
資格等				
5. GHS分類分野		特になし	特になし	特になし
分類に要した時間		50	35	50
不得意分野での不都合	ない	ない	ある	ある
その理由			皮膚感作性など具体的な数値から判断できない項目の場合。情報が乏しい場合。	GHSの日本語版手引きの内容が理解できない。
6. 分類に必要な知識・情報の種類		GHSについてはインターネット等から理解できた。しかし分類についてはわかり難い。インターネット等の検索機能で分類は可能である。物性データ（物理的危険性？）についてはマニュアルではわかりにくい。	GHS分類の方法を理解する事が困難であった。数値以外の情報で判断をする場合、知識のバックグラウンドが必要である。	GHSの表示については理解していたが、分類方法は知らなかった。判定基準の理解が難しい。とくに有害性情報が明確でない場合の対処が難しい。多くの分類例が必要である。分類結果を比較することも必要である。蒸気圧等物性情報に関する知識が不足していた。
7. 効率的分類、分類者間差異の是正	データ見つけられないものが多かった。個々の成分について多くの情報がわかりやすく開示されていれば混合物も早く的確に分類できる。	得られるデータは既に分類されていたが、分類根拠が示されていない。最初は分類方法がわからなかった。	マニュアルを読んだだけでは分類方法が理解し難いので、分類者対象のセミナーなどが必要である。日本語の情報サイトが必要である。既存の化学物質情報を公表する。	分類の手引きを簡潔にする。GHS日本語訳を読んでも理解困難なところがある。分類を始める際、何から手をつけたらよいか全くわからなかった。

表 5・2 分類者アンケート結果（2）

	分類者 オ	分類者 カ	分類者 キ	分類者 ク
1. 年齢	39	57	47	52
	その他	会社員	法人職員	会社員
職種・業務	医薬品及びその原料の機器分析、脳内物質の測定	化学物質の法規制対応業務、システム開発	大気汚染物質の分析、労働環境の化学物質の分析・評価	産業医、事業所の新規化学物質の導入審査
化学物質関連従事期間(年)	7	20	22	14
パソコン使用歴(年)	13	18	22	28
3. 最終学歴	大学	高専	修士	博士
学科・専攻	家政学部	工業化学	冶金学科	有機化学、分析化学、医学
4. 専門科目		化学工学など		産業中毒学
職場教育	化学物質の基礎的な取扱方法	安全衛生教育、ISO14000 など	分析方法	
研究内容			労働環境中の有害物測定・評価	化学物質管理、分析化学、中毒
独学				化学物質管理システム
資格等		危険物取扱者甲、公害防止管理者水質一種	環境計量士、作業環境測定士	
5. GHS分類分野	特になし	特になし	健康有害性	物理化学的危険性、健康有害性
分類に要した時間	125	160	50	25
不得意分野での不都合	ない	ない	ある	ある
その理由			判定される有害性の具体的イメージがわからない場合がある	環境有害性について実務の経験が無い
6. 分類に必要な知識・情報の種類	有害性や生物学的な用語などについての知識に加え、英語力も必要である。信頼できる海外の情報提供機関について知る必要がある。インターネットで検索された一次文献などの入手方法を知る必要がある。	分類項目ごとの判定方法、必要なデータと区分・判定条件の理解、単一物質を分類するためのデータと分類モデル、分類に必要なデータまたはその入手方法、混合物を分類する判定基準の理解が必要である。	国連 GHS 勧告に基づく分類データ	健康有害性及び環境有害性についての情報はインターネットなどから取れるが、それらの文献を入手するのが面倒である。古い文献の場合には歴史のある大学でないと入手できない。
7. 効率的分類、分類者間差異の是正	日本語での情報の充実が必要である。一番大変なのは情報収集なので、有害性に関する情報や文献を一箇所に集積し、情報をインターネットで公開する。共同の分類作業、データ収集の情報交換、専門家による講義、GHS 文書の理解などについて、分類作業者の意見交換の場を作る。	単一物質の標準分類データ、フローチャートなどの分類マニュアル、自動分類ソフト。分類が困難な時の相談窓口が必要である。	国連 GHS 勧告に基づく分類データおよび混合物の分類ソフト	キシレンの場合のように既に分類結果があれば、作業量が少なくて済む。単体についての分類結果の蓄積があれば、パソコン上で混合物も間違いなく速やかに分類可能と思われる。

資料1 ラベル内容の理解度についての調査で使った質問票

記入日 2006年 月 日

氏名 _____

性別 (女 ・ 男) 年齢 歳

(1) 現在の業種について、以下のいずれか1つに○印を付けてください。

- 1. 建設業 2. 製造業 (工業) 3. 電気・ガス・水道業
- 4. 情報通信業 5. 運輸業 6. 卸売・小売業 7. 飲食・宿泊業
- 8. 金融・保険業 9. 不動産業 10. 医療・福祉 11. 教育
- 12. サービス業 13. その他 ()

(2) 現在の職種について以下の () 内のいずれか1つに○印を付けてください。

- 1. 事務職 (総務 人事・労務 経理 企画 調査)
- 2. 営業職 (販売 一般マーケティングリサーチ 企画 広告宣伝
販売促進セールス 保管輸送 技術サービス)
- 3. 技術職 (設計技術 生産技術 研究開発 システムエンジニア
サービスエンジニア セールスエンジニア)
- 4. 主婦 5. 学生 6. その他 ()

(3) 現在、何らかの視覚障害を有していますか。「はい」と回答した方は差し支えなければその名称をご記入ください。

(はい ・ いいえ)
名称 ()

(4) あなたは化学品の危険有害性情報についてどのくらい知っていますか。以下の1~5の中から最も当てはまるもの1つに○印を付けてください。

まったく 知らない	あまり 知らない	少しは 知っている	知っている	よく 知っている
1	2	3	4	5

(5) 親族に化学品を扱う職業に携わっている (携わっていた) 方がいますか。「いる」と回答された場合、その職業を記入してください。

(いる ・ いない)
職業 ()

(6) あなたは化学品の危険有害性情報にどのくらい関心がありますか。以下の 1~5 の中から最も当てはまるもの 1 つに○印を付けてください。

まったくない	あまりない	少しはある	ある	非常にある
1	2	3	4	5

(7) 日常生活あるいは仕事で化学品の危険有害性情報ラベルをどの程度見ますか。以下の 1~5 の中から最も当てはまるもの 1 つに○印を付けてください。

まったく見ない	あまり見ない	見たり見なかったりする	だいたい見る	いつも見る
1	2	3	4	5

(8) 以下の 3 つの語句について、どのくらい有害性があると思いますか。1~5 の中から最も当てはまるもの 1 つに○印を付けてください。

「警告」について

低	←	有害性	→	高
1	2	3	4	5




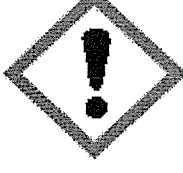

「危険」について





低	←	有害性	→	高
1	2	3	4	5

「注意」について

低	←	有害性	→	高
1	2	3	4	5

(9) 以下の絵表示から何が分かりますか、あるいは想像しますか。回答に正しいとか間違っているとかはありません。あまり深く考えず、思ったままを自由に回答してください。

絵表示	回答欄
	
	
	
	
	

絵表示	回答欄
	
	
	
	

(1) このラベルから、どのくらい具体的に危険性あるいは有害性があるかのかが分かりますか。以下の各項目について、1～5の中から最も当てはまるもの1つに○印を付けてください。

(i) 危険性について

まったく 具体的でない	あまり 具体的でない	まあまあ 具体的である	具体的である	非常に 具体的である
1	2	3	4	5

(ii) 健康に対する有害性について

まったく 具体的でない	あまり 具体的でない	まあまあ 具体的である	具体的である	非常に 具体的である
1	2	3	4	5

(iii) 環境に対する有害性について

まったく 具体的でない	あまり 具体的でない	まあまあ 具体的である	具体的である	非常に 具体的である
1	2	3	4	5

(2) 安全に取り扱うための予防措置がどのくらい分かりやすく記載されていると思いますか。以下の1～5の中から最も当てはまるもの1つに○印を付けてください。

非常に 分かりにくい	分かりにくい	どちらでもない	分かりやすい	非常に 分かりやすい
1	2	3	4	5

(3) 救急の場合の処置などがどのくらい分かりやすく記載されていると思いますか。以下の1～5の中から最も当てはまるもの1つに○印を付けてください。

非常に 分かりにくい	分かりにくい	どちらでもない	分かりやすい	非常に 分かりやすい
1	2	3	4	5

(4) 保管や廃棄についてどのくらい分かりやすく記載されていると思いますか。以下の1～5の中から最も当てはまるもの1つに○印を付けてください。

非常に 分かりにくい	分かりにくい	どちらでもない	分かりやすい	非常に 分かりやすい
1	2	3	4	5

(5) 一見して（ぱっと見て）、このラベルはどこに何が記載されているかすぐに分かりますか。以下の1～5の中から最も当てはまるもの1つに○印を付けてください。

すぐには 分からない	あまりすぐには 分からない	どちらでもない	だいたい すぐに分かる	すぐに分かる
1	2	3	4	5

(6) 全体的に見て、このラベルのレイアウト（配置）は危険有害性情報を得るのにどのくらい見やす

いと思いますか。以下の 1~5 の中から最も当てはまるもの 1 つに○印を付けてください。

非常に 見にくい	見にくい	どちらでもない	見やすい	非常に 見やすい
1	2	3	4	5

(7) 全体的に見て、このラベルのレイアウト（配置）は危険有害性情報を得るのにどのくらい分かりやすいと思いますか。以下の 1~5 の中から最も当てはまるもの 1 つに○印を付けてください。

非常に 分かりにくい	分かりにくい	どちらでもない	分かりやすい	非常に 分かりやすい
1	2	3	4	5

1. いま回答していただいたラベルの中の絵表示は、絵表示の右あるいは下に併記された危険有害性情報を表しています。各絵表示はそれぞれの危険有害性情報をどのくらい分かりやすく表していると思いますか。以下の1～5の中から最も当てはまるもの1つに○印を付けてください。

絵表示	有害性情報	非常に分かりにくい	分かりにくい	どちらでもない	分かりやすい	非常に分かりやすい
	引火性液体	1	2	3	4	5
	<ul style="list-style-type: none"> ・重篤な眼の損傷 ・皮膚刺激 ・金属腐食の恐れ 	1	2	3	4	5
	水生生物に非常に強い毒性あり	1	2	3	4	5
	飲み込むと有害	1	2	3	4	5
	<ul style="list-style-type: none"> ・刺激性 ・可燃性の液体 ・皮膚を刺激する 	1	2	3	4	5

絵表示	有害性情報	非常に分かりにくい	分かりにくい	どちらでもない	分かりやすい	非常に分かりやすい
	こどもに注意	1	2	3	4	5
	目に注意	1	2	3	4	5
	酸性タイプと併用不可	1	2	3	4	5
	必ず換気	1	2	3	4	5

2. 以下の各質問について、当てはまるほうに○印を付けてください。

(1) どちらのラベルが見やすかったですか。

(ラベル A ・ ラベル B) / (ラベル C ・ ラベル D)

(2) どちらのラベルが分かりやすかった (理解しやすかった) ですか。

(ラベル A ・ ラベル B) / (ラベル C ・ ラベル D)

(3) どちらのラベルが簡潔に有害性情報を記載していましたか。

(ラベル A ・ ラベル B) / (ラベル C ・ ラベル D)

(4) 4つのラベルについて、良い点や悪い点などがありましたら自由に記入してください。

ラベル A	
ラベル B	
ラベル C	
ラベル D	

最後に、記入漏れがないかどうか確認してください。
ご協力ありがとうございました！

ラベル調査プロトコール

